

「第1回 日田市文化財保存活用地域計画協議会」の主な意見

1. 開催日時 令和3年10月15日(金) 14:00~16:30
2. 場所 日田市役所本庁4階庁議室
3. 議事

- (1) 文化財保存活用地域計画、大分県文化財保存活用大綱について
- (2) 日田市の文化財について
 - ① 日田市の文化財の概要
 - ② 日田市の文化財の保存・活用の取組
- (3) 日田市文化財保存活用地域計画の作成の取組について
 - ① 取組の背景・推進体制
 - ② 計画の位置付け
 - ③ 計画作成に向けたスケジュール
 - ④ 令和4年度文化財総合把握調査

4. 議事内容

- (1) 文化財保存活用地域計画、大分県文化財保存活用大綱について

●関連遺産としての未指定文化財について

物語をつくって関連遺産を拾うというところで、未指定のものも重要なものは拾っていくべきだと思う。

- (2) 日田市文化財保存活用地域計画の作成の取組について

●計画作成のイメージについて

- ・ この保存活用地域計画というのは、日田市の文化財保存活用の100年の大計だろうと考える。文化財と誰のものなのか。これは、一部の専門家のものでだけでなく、やはり基本的にはこの日田地域に住む過去、現在、未来の人々のものであろうと、この人たちが文化財を使って楽しむということが基本であらうと思う。

そう考えてきたときに、日田では参加をもう一歩進めて参画まで進めていただきたいと思う。例えば、発掘で言うと、発掘現場を見に来る人が観覧人口、実際にその中に入って一緒に発掘する人が参加人口、その上に一緒に発掘しようか、どういうふうに研究しようか、そういう形で最初から一緒に企画、それを実現して、それが参画人口ということになるかと思う。

文化財というものの活用の効用で、私はこれをローマ字にするとKが全部頭につくものですから、五つのKというふうに言っている。環境、観光、教育、健康、それから共感です。文化財を保存活用することによって、そういう効果が得られる。

まちづくりは、やはり市民が主体であらうと思うことから、この保存活用地域計画は市民の方々が主体になって楽しめるような、そういう計画にしていきたいと考える。非常に原則論的な話となるが、ここは踏まえていただきたいと思う。

●文化財保護員と文化財把握調査について

- ・ 皆様も言われておりますように、市民の方、その地域のことをよく知っている市民の方の参画ってというのは本当に大切なことだと思う。
- ・ 文化財の現地調査前に、今まで書かれたものの市町村史であるとか、あるいは県の文化課、あるいは埋蔵文化財センター、県立歴史博物館、あるいは、地元の郷土史関係の資料であるとか、そういうものを一応全部見直して保護リストを作っておかないといけないと思う。昔の調査ですから、それが現在残っているかどうかという確認をしながら現地調査をしていかないと、やみくもに調査するといっても時間のロスが多くなる。未指定文化財のリストを作っていくことになれば、今まで書かれたものをちゃんと押さえる必要があるのでは。それをやって、あるいはやりながら現地調査をしていかないと非常に時間的にも、内容的にも、ロスが多くなると思う。
- ・ 調査はあくまでも文化財を総合的に把握する方法としてやっているわけだから、大事なのは日田の歴史文化の特色はどこにあるのかということをもとに、最初にその程度、きちんと枠組みを作る、例えば、水郷日田とか、日田の特色には山があって、産業があって、そこに日田の文化が生まれて歴史があるとか、そういうことが、この日田の地域の大きな特色であると皆さんは分かっており、そういう枠組みを提示してもらいたい。そして、その中にどういう文化財が位置づけられてくるかっていう作業をきちんとしないと、最初から物である文化財というところの話を進めると、何か些末な方にどんどん話が入ってしまう。日田の特色をどう捉えて、キーワードをどういうふうに出してくるのかっていうところを最初の作業としてやってもらわないと。要するに日田の特色を前面に打ち出していくっていうところ、それが一体何なのかっていうところがあり、そこに文化財が位置づけられることによって、関連遺産というものも出てくる訳で、そこにしっかり核になる文化財がちゃんと残っていて、だから、このストーリーというか、その中に関連遺産が出てくるというそういう枠組みに多分なると思う。是非そこは一番根幹をなす部分ではないかなと思うので、そこに立ち返ってからちゃんとやるっていう作業を進めていただくことが大事じゃないかと思う。

●各委員から

- ・ 専門家ではないからこそ今日思ったことは、先生方のお話のおかげで、この協議会の目的がすごくわかりまして、今までそういった専門知識のある方々の中でつくられていたものが、いかに市民の人とか子供たちとかに、ちゃんと伝わって一緒に参画していける環境をつくるための土台をつくるということなのかなと思った。是非、例えば鶉飼いとか、祇園祭とか、大人は知っているんですけど、子供たちは関わったことが無いからやっぱり知らなくて、それをどう保存していくとかは自分とは関係のないことだと思っていることが多々あると思うので、そういったものを一緒に参画できる環境づくりをこの協議会の中で、させていただければなと思った。

- ・ 今後こういう調査の中で、公民館もちょっと関わりながら一緒になって、携わることができるとは思えないかなと思う。地域の人材をよく知っているというのが公民館の強みでもあることから、そういうところを生かしながら、この計画に携わっていききたいと思う。
- ・ やはり文化財とか古い建物無くして日田の文化とか歴史とか風土というのは絶対に語れないと思う。また、文化財とか古い建物を守るだけでは発展はないし、個人所有の文化財では、公平性を保てば保つほどスピードは遅くなってしまふ。保存と活用、何と言っていいかわからない、もどかしいなと思いつつ過ごしている中で、この文化財保存活用地域計画という、行政と二人三脚でやっていくってという協議会に参加が出来たことは本当にありがたく、協議を重ねてしっかり結果を残して形にしていくような会にしていかねばならないと思う。
- ・ これまで文化財というのが保存とかばかりに力を入れられて、なかなか活用という部分というのが非常に無かったような、一応豆田町とか隈町ではあるにはあるんですけど、それ以外の物事に関しては、なかなか活用という部分まで行っていなかった部分が多々あるのかなと思う。
 参画というお話をいただいたが、まさに参画するということは交流が生まれるということで、まずは、観光。今、アイデアはいろいろあるものの、なかなかそれが基本的な計画の中に入ってないから、そういう交流までもっていく、一部の人間でしか出来ないの、何かそこが非常にネックなんだろうなと思う。先ほど文化財の在り方も変わってきているという意見もあったが、まさに観光とよく似ているなと思いつつ、文化財と観光は同じ視点で見ていきながら、文化財を保存することは大事なのだが、見ていただいたりとか触れていただいたりとか、感じていただくというところが大事なのかなと思う。文化財という言葉がちょっと堅苦しくて、宝なのかな、僕らの宝みたいな形で考えるようにすると気が楽になるのかなというふうに、肩の力を抜いてお話ができるのかなと思う。
- ・ 日田の自然を見たときに、やはり、昔からの植生のつながりというものがある。40年間私たちはずっとやってきたんですが、ただ、その報告書を作ったんですが、その報告書を作るだけでは意味がない。やはりそのことを、市民にどれだけ知ってもらえるのか。また、子供たちがそれをどう学習に使うのかとか、そういうことが無く、ただそれを調べて作ったという保存したというだけでは、何かこう足りないものがあるのじゃないかなというふうな気がしてならない。やはり、市民との対話ができる、知らせる、学習するとか、そこにつながらないと、その辺に少し何と言うか力点をおけるといいのかなと思う。